

# ほろり中もん

173 バースデー



**薩摩郷句** 兼題「眼鏡」  
 昏寝母け子達が眼鏡を書つくれつ  
 (唱) お父さん迄や 一緒き励つ 植村 昭子  
 ど暑き日ん汗が眼鏡を擲揃らけつ  
 (唱) 耳の後とで 縛れば良かて 上村 牛歩  
 俺が顔れ窓口ちや怖氣いサングラス  
 (唱) 課長い任せつ 娘どま逃げつ 諸木 小春  
 金縁眼鏡のヨン様気取い今日も出張つ  
 (唱) 伊達男がち 周囲ん衆や笑つ 高辻 満天  
 忙しけ時期き 眼鏡探しけで 日を潰つ  
 (唱) 何ゆばさせてん 役き立たん亭主 西ノ園ひらり

**大崎短歌会**  
 糸瓜の緑のカーテンそよがせて初秋の風吹く  
 窓の下吹く 中崎ハナエ  
 松籟をわがものとして束し一世 防風林のか  
 たへに住みて 大和てるみ  
 田の風をひよーいひよーいと呼びながら稲通  
 しで米をとりし頃あり 行騰 泰子  
 朝風はまだ立たねども川べりを歩くわが頬か  
 すかに撫でて 原田 葉子  
 友くれば楯の大樹に椅子寄せて涼しき風に会  
 話はずめり 長重 悦子

**大崎俳句会**  
 法師蟬天災愁ひ夕なすむ 三浦 倫子  
 身に入むや夜のしじまの救急車 春田 昌子  
 小雨降る墨絵ぼかしのもみじ山 二見 淑  
 虫すだく草むら明治製糸跡 内田ちどり  
 彼岸冷えひとしほ父を偲びけり 桑原 正樹  
 坊ちゃんの袴姿や城の秋 中崎ハナエ  
 舞ひ降りる番ひの鳩や今朝の秋 町田ヤス子



絆を深める大縄跳び

## 今月の表紙

第59回町民体育祭で小学校対抗の大縄跳び競技が行われました。児童は声を掛け合い、記録更新にチャレンジしました。回数を重ねるごとにクラスの絆が深まっていくのを感じました。

## 人権啓発シリーズ②

あなたの当たり前が、誰かを傷つけているかも。

～同和問題について考えるための『気付き』のヒント～

- 同和問題は知っているが、自分には関係ないことだ。
- そっとしておけば、いつかなくなる人権問題である。
- その言葉に傷つく人がいることまでは、考えたことがない。
- 同和問題は関わりたくないこわい問題である。
- 差別的な落書きをそんなに気にしなくてもよいのでは。

同和問題と聞くと、『無関心』、『避けたい』という人がいるのは、その人の心の中に『怖い』、『難しい』、『面倒くさい』という気持ちと、自分の持つ『偏見』があからさまになることに対する、無意識の抵抗があるからではないでしょうか。同和問題の解決に向けて、差別意識の解消のための取組などが必要です。